

令和3年7月9日（金曜日）



【静岡の大雨被災地】被害防止へ事前対策必要／足立敏之議員らが視察

参議院災害対策特別委員会の今村雅弘委員長、佐藤信秋委員長代理、伊藤忠彦事務局長、足立敏之事務局次長は7日、梅雨前線に伴う大雨で被災した静岡県の現状を視察した。緊急対策の検討が主な目的で、熱海市や沼津市、清水町で現地の被災状況を確認するとともに、首長から各種支援を求める要望書を受け取った。足立議員は、土砂災害警戒区域で発生した熱海市の土石流災害について「人家が連坦する地域でこのような災害が起こることは、あまり経験がない。全国には同じような地形のところもあるので、もう一度よく検証して大きな雨が降った時に激甚な被害がでないような事前防災対策が必要ではないか」と説明。また「地球温暖化で雨が降りやすくなっている状況で、今まで安全だったからそれでいいという話ではない。再度検証し、必要なところには対策を打つことが大事」と話した。



甚大な被害が生じた土石流災害の現場を視察した

さらに、沼津市と清水町の間を流れる狩野川水系黄瀬川に架かる県道橋「黄瀬川大橋」は、橋脚の基礎が洗掘されて沈下したため、大型土のうを設置し、現在は通行止めとなっている。足立議員は「老朽化した橋の対策や土石流の危険渓流の予防も含めて、しっかりと備えをするべきだとあらためて感じた」と述べ、経済対策や災害緊急対応を踏まえた補正予算の必要性を強調した。

熱海市の土石流災害の現場では、県や市と災害協定を結んでいる地元建設業協会が国道のがれき撤去作業に出動し、24時間体制で対応を進めているところも視察した。今後、行方不明者の捜索や救助のめどが立ち次第、本格的な撤去作業を行う見通しだ。他にも国土交通省沼津河川国道事務所からの要請で照明車を現場に搬送して作業を実施するなど、被災地では地元建設業者が「地域の守り手」としての役割を果たしている。